

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年6月22日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	122	26	4	57	57	144
令和6年	106	21	0	43	56	120
前年同期比	16	5	4	14	1	24

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	18	14.8%	5	0	9	6	20
	後立山	25	20.5%	5	1	10	21	37
	その他	21	17.2%	0	0	16	8	24
計	64	52.5%	10	1	35	35	81	
中央アルプス	9	7.4%	3	1	3	3	10	
南アルプス	2	1.6%	0	1	1	0	2	
八ヶ岳連峰	14	11.5%	3	0	8	4	15	
その他の山岳	33	27.0%	10	1	10	15	36	
計	122		26	4	57	57	144	

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	44	36.1%	15	0	31	0	46
転倒	22	18.0%	1	0	21	0	22
病気	5	4.1%	2	0	0	3	5
道迷い	20	16.4%	0	0	0	32	32
落石	1	0.8%	0	0	1	0	1
雪崩	2	1.6%	1	0	1	1	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	5	4.1%	0	0	0	6	6
不明・他	23	18.9%	7	4	3	15	29
計	122		26	4	57	57	144

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3		0	0	0	0	0	3		
20代	1	0	1	10	12	27	0	0	1	4	5	17	36	
30代	3	1	3	5	12	25.2%	0	0	2	2	4	16	25.0%	
40代	4	1	8	3	16	42	1	0	5	2	8	24	61	
50代	6	0	9	11	26	39.3%	0	0	8	3	11	37	42.4%	
60代	5	1	8	8	22	38	0	0	6	0	6	28	47	
70以上	6	1	4	5	16	35.5%	0	0	2	1	3	19	32.6%	
計	25	4	33	45	107		1	0	24	12	37	144		
比率	74.3%						25.7%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生 (6/16~6/22)

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
6月17日	北アルプス 常念岳	男	71	負傷	転倒	2人パーティで常念岳から常念乗越に向けて下山中、バランスを崩して、転倒、負傷
6月17日	北アルプス 白馬岳	男	69	無事救出	その他	2人パーティで猿倉から白馬岳に向けて大雪渓を登山中、小雪渓付近で技量不足により、行動不能
		女	48	無事救出	その他	
6月18日	黒斑山	女	67	負傷	転倒	2人パーティで黒斑山から蛇骨岳に向けて縦走中、木の根に足を取られ、転倒、負傷
6月18日	北アルプス 白馬岳	女	48	負傷	滑落	2人パーティで猿倉から白馬岳に向けて大雪渓を登山中、小雪渓付近で滑落、負傷
6月19日	北アルプス 白馬岳	男	50	無事救出	その他	単独で猿倉から白馬岳に向けて大雪渓を登山中、小雪渓付近で技量不足により、行動不能
6月19日	北アルプス 白馬鑓ヶ岳	男	25	無事救出	その他	2人パーティで天狗ノ頭から白馬鑓温泉に向けて下山中、技量不足により、行動不能
6月19日	北アルプス 白馬鑓ヶ岳	男	24	死亡	滑落	2人パーティで天狗ノ頭から白馬鑓温泉に向けて下山中、滑落(上記遭難者の同行者)
6月20日	北アルプス 西岳	女	48	負傷	滑落	8人パーティで西岳から槍ヶ岳に向けて縦走中、滑落、負傷
6月21日	高ボッチ山	男	61	無事救出	疲労	単独で高ボッチ山から下山中、疲労により、行動不能
6月22日	北アルプス 奥穂高岳	女	43	負傷	滑落	2人パーティで奥穂高岳から涸沢に向けて下山中、滑落、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、10件の山岳遭難が発生し、うち1件は死亡遭難でした。

白馬大雪渓では、滑落による負傷や技量不足による行動不能となった山岳遭難が3件発生しています。いずれも携行していた装備が万全ではなく、準備不足による遭難でした。

麓では、気温30度超えの暑い日が続き、山に雪が残っているとは想像しにくいところですが、標高の高い山域ではまだまだ雪の残った場所があり、滑落や転倒に備えたアイゼン・ピッケルの装着・携行が必要です。斜度が強い箇所での滑落は、止まらずに下部まで滑り落ち、岩にぶつかったり、シュルンドに落ちれば、大怪我や最悪の場合、死に至る可能性もあります。

この時期は、アイゼンやピッケルの携行を迷うところですが、登山計画の際には、行き先の山域やルート of 最新情報を確認し、少しでも不安がある場合には、行き先の変更や装備品を見直しましょう。また、自身や仲間の技量に見合った山域を選定し、無理のない安全登山を心掛けましょう。